



思想家・評論家で、即物的ではなく、大きな存在を認めている人だということ。そんな本は、戯曲でも小説でもエッセイでも、妙に心が惹きつけられる。

彼はかなり前に結婚して、そんなに長く経っていない時に奥様が亡くなったんです。幼い子を残して。もう悲しくて悲しくて、心に大きな穴が開いて、寂しくて喪失感でいっぱいの時、ヒルティという人の本を読んだ。

『あなたが大事な人を亡くしたら、亡くしたと言ってはならない。お返ししたのだ。亡くした人が妻でも子供でも夫でも、元々あなたのものではないのだ。あなたがこの地上を生きていく間、神が一時的に貸し与えてくださったのであり、あなたの心を捉えていたものの本当のオーナーは神である。他人の持ち物を一時的に貸し与えられている、と思って生きてみてはどうだろう。通りすがりの旅人が宿に泊まる時、宿賃を払うから1泊分は自分の部屋として使うが、宿そのものを買ったのではない。翌日別の場所に行った時、別の宿の所有権を主張することもない。私たちはこの地上で、通りすがりの旅人のように歩いているものなのだ。』

これにものすごく慰められた。永遠というものを知っている人たちの人生観・・・死んで終わりじゃない。物質だけがすべてじゃない。死んでも、次の永遠の世界がちゃんとある。そういうことを気づかせてくれる本ばかりに惹きつけられた。そうしてキリストのことを聞いた時、また私のYouTubeを見た時「これだ！」それでクリスチャンになった。私は彼との再会をととても楽しみにしてるんです。

ところで、すべての人がそうだったら、この木曜日の集會ももっとやり易いんですが、みんながみんな、神様に対して感じやすい心を持っているわけじゃない。証拠をどんだけ目の前に置かれても、無いもんは無いということで、神について中々分からない。美しい自然を見ても、そこに作者を見て取ることはない。そんな人が多いんじゃないですか？

でも、そんな人でも神を認めることができる、神が提示した強力な説得材料があると私は信じています。それは**終末預言**なんです。**聖書預言**。聖書預言は信じている人にだけ真実なのではなく、信じようが信じまいが、無関係に実現していくからです。信じた人たちのみの真理ではない。客観的に、聖書に語られていることがそのとおり成就している。信じていない人も認めざるを得ない。これに勝る神の自己証言はないと思います。

今見ている**ダニエル書**は「旧約聖書の終末預言」「旧約聖書の**黙示録**」とも言われていて、終末預言がたくさん入っているんですね。今日は**9章**の後半を見ますが、まず前半のおさらいをします。

国破れて山河在り。ダニエルはバビロンに滅ぼされた国の人で、国が消えて、捕虜としてバビロンにいたんですが、**メディア族のクセルクセスの子ダレイオス**が、**カルデア人の国の王**となったその元年に、この幻を見たと言うんですね。

彼はエレミヤが書いた**エレミヤ書**を読んで、この捕囚は70年きっかりで終わることを教えられました。バビロン捕囚は4回行われますが、ダニエルは1回目の捕囚です。1回目の捕囚から数えて70年というのは、あと2~3年しかない。あと2~3年で帰ることができる。それで彼は興奮して、ユダヤ人たちがバビロンを倒したペルシアから祖国の地に帰ったら、即座にメシア的王国が実現すると勘違いしたんですね。

聖書は「バビロン捕囚から帰ってから元に戻ります」と書いているけど、ダニエルは、帰るだけじゃなく戻ったら即、旧約聖書がユダヤ人に前々から約束しているメシア的王国、すなわちイスラエルが世界の中心となり、全地が平和と公正に満ちた素晴らしい時代がやって来る。その時代がもうカウントダウンに入っていると思ったんです。彼は神の前に、ぜひそれを実現してくださいと叫び祈ります。しかし、それは彼の勘違いでした。

### **ダニエル書 9章**

**21** すなわち、私がまだ祈りの中で語っていたとき、私が初めに幻の中で見たあの人ガブリエルが、すばやく飛んで来て私に近づいた。それは夕方のささげ物を献げるころであった。

今から話すのは、ユダヤ人の聖書学者フルクテンバウムさんがネット上に公開している、ダニエル書の講解（英語）のGoogle自動翻訳からです。自動翻訳が間違えてなければ、人というのは人の姿に見える天使／御使いです。

あの人ガブリエルが、すばやく飛んで来て私に近づいた。  
近づいたのヘブライ語のニュアンスには「疲れていた」があります。  
あまりにも素早く飛んで来たのでハアハアと。そんなん、御使いつて疲れるか？  
いや、それぐらい息せき切って来たと言いたい。実際に疲労困憊してたんじゃなく  
てそれぐらい、「ダニエル、ちょっとその祈り待てー！」と飛んで来た。

**22** 彼は私に悟らせようとしてこう告げた。「ダニエルよ。私は今、悟りによってあなたを賢明にさせようとして出て来た。

ということは、今のその祈りは賢明じゃない。ズレてるので、間違ってるので、賢明にさせようとして出て来た。

**24a** あなたの民とあなたの聖なる都について、七十週が定められている。

メシア的王国はバビロン捕囚から70年で出来るのではなく、70週の神の計画の末に実現するんだ。

今日は、この**70週の預言**について紹介します。  
週（シャブア）は7という単位です。だから週にしたんです。日本語でも上旬・中旬・下旬の旬は10を単位にしている。1ダースは12が1単位。週は7が単位。

七十週が定められている。つまり  $70 \times 7 = 490$  年のタームで、神はユダヤ人に準備している祝福と計画をすべて実現する、という預言なんです。70 週の預言については、後で分けをします。非常にややこしいんですね。なので、できるだけ簡単にお話ししようと思います。

この 490 年のタームの中で、神は 6 つの目的を達成するというんです。6 つの目的の中の前半 3 つは、「**否定的なことをやめさせる**」という目的。後半の 3 つは、「**肯定的なことを始める・実現する**」という目的。それを見ていきます。

**24b** それは、背きをやめさせ、罪を終わらせ、咎の宥めを行い、永遠の義をもたらし、幻と預言を確証し、至聖所に油注ぎを行うためである。

A) 「**否定的なことをやめさせる**」という 3 つの目的

#### 目的 1 背きをやめさせる

背きはペサーという言葉で、ヘブライ語では定冠詞が付いていて、「非常に強烈な・特定の・決定的な・致命的な・ある罪」のことです。

ユダヤ民族にとって、取り返しのつかない、特定の反逆をやめさせるためのプラン。後に分かりますが、ユダヤ民族の国家としての、民族としての、神に対する致命的な反逆とは「メシアを拒絶すること」ですよ。

メシアの拒絶を完全にやめさせるためのプランが、490 年のタームの中に入ってる。

#### 目的 2 罪を終わらせる

罪はハーターという言葉で複数形。「的を外れ」のことです。

「方向性が違って、とんでもない所に行った。的の中心じゃなくて、ちょっとズレた。」だから的を外れなんです。ヘブライ的な意味は「そもそも的に届かない」。10m 先に的があって思い切り射抜くけど、2m くらいの所でポトンと落ちる。

つまり、これが正しいんだという目的を示されても、そこに到達する実力が人間にはない。正しいことは知っているが、それを実行する能力が決定的に欠けている。日常生活の中で、してはならないこと・こうすべきだということがたくさんあって、時々出来ることもあるけど、ことごとくゴールまで行かない。

罪を終わらせるというのは、「メシア的王国が来たら、罪／的を外れが無くなる」という意味です。ほかの民族の中では起こりますよ。

でも、イスラエルの民の中では、届かない罪／的を外れの罪が無くなる時代が来る。それを実現するための 490 年の中のプランなんです。

#### 目的 3 咎の宥めを行う

咎は「不正」のことで、咎の中には「的を外れ」も「メシア拒絶の致命的な罪」も入っています。この一切合切の宥めを行うための 490 年。

つまり、490 年の時間帯の中で、どんな罪も贖う救済の神のわざが行われる。神はユダヤ人のすべての罪を贖う救いを、490 年間のどのタイミングかにおいて成

し遂げられる。

B) 「**肯定的なことを始める・実現する**」という3つの目的

#### 目的4 **永遠の義をもたらす**

もたらすには「やって来る・来たらせる」という意味があるので、**永遠の義をもたらす**は「永遠の義がやって来る・永遠の義の時代が到来する。」今はそうじゃない。でも、正義と公正が満ちる国や時代／メシア的王国が、この地上にやって来る。そのために必要なことが490年の間に起こる、と言っているんですね。

#### 目的5 **幻と預言を確証する**

ここでの**幻**は「文書化されていない預言」のこと。

例えば、旧約聖書に預言者の**エリヤ**と**エリシャ**が出て来ます。ものすごく用いられて大活躍した預言者ですが、彼らは預言書を書いてません。口頭で宣べました。

預言は「文書化・文字化されてドキュメントになった預言」のこと。

**ダニエル書**も**エレミヤ書**も**イザヤ書**もそうです。そういう旧約聖書の**幻と預言を確証する**。旧約預言が実現する。490年を通して、旧約預言／文書化されたものもそうでないものも、ことごとくすべて実現する。

#### 目的6 **至聖所に油注ぎを行う**

至聖所があるのは神殿です。聖書には神殿が4つ出て来ます。

① ソロモンが建てた第1神殿。BC586年に炎上してなくなりました。

BC586年は大事な年です。「神殿燃やしやがって586（この野郎）」と覚えたらいい。

② ゼルバベルの時代に第2神殿が建て直されました。これは非常に貧弱なものでしたが、ヘロデ王が大改築します。改築開始がBC20年、完成がAD64年。

84年掛けて拡大したんですね。当時、世界の7不思議と言われました。

最後はローマ将軍ティトゥスが攻めるんですが、彼はここを滅ぼしたくはなかった。このエルサレム神殿をきれいに残して、ローマの神々を礼拝する神殿として奉納したいと考えてたんです。でも、ブワッとして燃えてしまったんですね。

③ 第3神殿は艱難時代に機能する悪い神殿です。反キリストが、ここで自らを神としてふんぞり返る。そのために利用する、艱難時代に存在する神殿です。

④ 艱難時代が終わった後、千年王国／メシア的王国が始まりますが、そこに第4神殿が出来ます。至聖所に油注ぎが行われるのは、この第4神殿です。

**第4神殿に油注ぎを行う**。つまり、世界中の人々／異邦人たちが第4神殿に巡礼にやって来る。イスラエルは文字どおり、世界の人々にとって聖書の教師になる。

人々はイスラエルを通して神のことばを学ぶ。

**みおしえはシオンから出る**、という時代が来るんですね。

これら6つの目的を果たすために490年の期間がある。

だけど、実際は 490 年ではないんです。

**25** それゆえ、知れ。悟れ。エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。そして苦しみの期間である六十二週の間、広場と堀が造り直される。

**70 週の預言**。週は 7 なので  $70 \times 7$  で 490 年。

これをダニエル書は 3 つに区分してます。

①最初の 7 週 ②62 週の塊り ③ラスト 1 週。合計 70 週。

まず頭に入れていただきたいのは、①と②の間には隙間がないということです。最初の 7 週と次の 62 週は連続していて、間に時間が差し込まれていない。連続体。だけど、②の 62 週と③のラスト 1 週の間には時間の隙間があって、この隙間で 3 つの大事件が起こります。それについては後で説明します。

**25** エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。そして苦しみの期間である六十二週の間、広場と堀が造り直される。

エルサレムを復興し、再建せよとの命令。この命令が出るのが BC538 年。

命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。

ここ句読点”。”が付いてるでしょ。この訳し方では、油注がれた者（メシア／キリスト）は、エルサレム再建命令が出てから  $7 \times 7 = 49$  年後に来ることになりますね。命令が出るのは BC538 年。その約 50 年後にメシアが来ることになる。

もちろん来ません。これ、訳し方が間違ってるんですよ。って、偉そうに。

自分で訳されへんくせに。私じゃなくて、フルクテンバウムさんが言ってるんです。

新改訳聖書もいいんですが、時々ね、いやしばしば、いやいや時々、新共同訳聖書の方が合ってるよね、ということがあるんですね。

新共同訳聖書では、正確には覚えてませんが、**油注がれた者、君主が来るまでが七週と六十二週。そして苦しみの間に、広場と堀が造り直される。**

何を語っているのか。7 と 62 を 1 つ 1 つの段落の区切りにするのではなく、ヘブライ語では 7 週と 62 週で連続体なので、69 週の 1 つの塊りとして見てもらいたいということなんです。

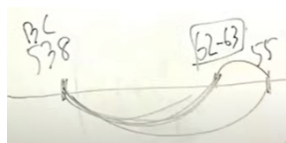
では、なぜここで一旦 7 週と分けたのか。

エルサレムの堀と広場が造り直される。エルサレムの工事はあっち手直し、こっち手直しで延長していくので、ずっと続くのですが、特に集中的に行われたのが最初の 7 週／49 年だからです。ゼロの状態から造るんだから、そりゃ集中しますよ。

そして苦しみの期間である六十二週の間。エルサレムに帰っていいぞと言われてから 7 週と 62 週の 69 週／483 年間は、ずっと苦しみの期間なんですね。

エルサレムがあり、エルサレムの神殿があるのに、苦しみなんですか？  
いや、エルサレムとエルサレムの神殿があるから苦しみなんです、と言うんです。

「エルサレムに戻りなさい」が BC538 年。そこから 69 週 = 483 年経つと BC55 年。



この計算の仕方は 1 年 = 365 日。

しかし、聖書はユダヤ暦で、1 年 = 360 日なんです。

それで補正すると BC62~63 年。BC538 年から BC62~63 年は苦しみ期間だと言うんですね。

国が無くエルサレムが無い、神殿が無いというのはもちろん苦しみです。

エルサレムとエルサレムの神殿があるのに、なぜ苦しみなんですか？

この間はペルシア帝国・ギリシア帝国・ローマ帝国の支配です。

ローマ帝国が支配するのが BC63 年。ポンペイウスがユダヤ人の独立国家ハスモン王朝を滅ぼして、事実上属国にしていたんですね。

ギリシア時代にセレウコス朝シリアが興った時、エルサレムの神殿は汚（けが）されます。アンティオコス・エピファネスがユダヤ世界にやって来て、神殿にゼウス像を置き、ゼウスに豚を献げたんです。ゼウスに献げる動物は豚と決まっています。ユダヤ人にとって豚は最も汚れた物で触れない。その豚の血がエルサレム神殿に流されて、献げられてるんですよ。それは苦しみです。

その苦しみをなぜ味わうのか？ 神殿が建て直されてるからです。

神殿が無いなら汚されない。神殿があるから、この苦しみを味わうんですね。

このたとえ、言わんところかな…。どうしよう…。

私クリスチャンになってかれこれ 40 数年経ってますが、今まで自転車、約 20 台盗まれてるんですよ。もう途中で数えるのをやめた。でも、この 2~3 年は 1 台も盗られてません。買うのをやめたから。今は集会まで歩いてますねん。

持ってないので盗られない。盗めるもんなら盗んでみる！ 持ってないから。

持っているんで、それを守らなければならない。私は達観して、もういいと。

エルサレム神殿、無かったら汚されようがない。あるからこそ苦しみを体験する。

さて、BC63 年以降に 3 つの重大事件が起こります。

① **26a その六十二週の後、油注がれた者は断たれ、彼には何も残らない。**

その六十二週の後とは 7 週後の 62 週で、合計 69 週の後。

油注がれた者はメシア／キリストです。

メシアが断たれる／殺される。メシアなのに殺される。

彼には何も残らない。直訳は「何も無い」。聖書の欄外註にそう書いてあります。

ところで、その駅は北田辺駅。東住吉キリスト集会の最寄り駅は近鉄の北田辺駅。だけど、地下鉄御堂筋線に西田辺駅があり、谷町線には田辺駅、JR には南田辺駅があり、小学校には東田辺小学校がある。田辺に東西南北が付くんですね。

昔はこの辺り一帯、見渡す限り田んぼやったんや！ 田舎やったんや！ と思ってたら、

違うと。田辺は渡来人で豪族の田邊一族の領地だったんです。今は東京／江戸が日本の首都ですが、古代日本史では近畿なんですよ。畿内が重要。畿内で、特に豪族の田邊（自ら穴の方にしんにゅうする）氏の根拠地がこの辺り一帯で、もし古墳時代なら、皆さんは日本のど真ん中にいるんです。それが落ちぶれてね、こんなコトになってしまいました。どんなコトやと。

その田辺があるのが東住吉区。住吉区の行政区画がでかすぎるので、切り離されて東住吉区になったんです。東住吉区の元の住吉区は、住吉大社があるから住吉区。住吉大社は全国にあります、その総本山がここの住吉大社で、船の神様です。航行する船路の安全を司る神。古代日本で最も危険な船旅は遣唐使・遣隋使でしたが、その出発地が住吉大社の境内の中にあるんです。つまり、昔は大阪湾、あそこまで海だった。この辺りって由緒あるんですよ。

東部市場前（とうぶしじょうまえ）という駅、これが出来る前に百済（くだら）駅がありました。昔、朝鮮半島に新羅（しらぎ）や百済という国がありましたね。百済は日本とすごく親密で仲良しだったけど、唐がバックアップしている新羅に滅ぼされます。その後百済の人たちが日本に渡って来て、「私たちの国を復興してください！」日本は何を思ったのか「分かった！」言うてね、大海軍を結成して戦いに行くんですよ。これが大惨敗。ほとんどの兵士や指導者たちは尻尾巻いて帰って来たのですが、一部は唐の人質になりました。

その中に、“白村江（はくすきのえ）の戦い”の大伴部博麻（おおともべのはかま）という有名な人がいます。彼はバビロン捕囚ならぬ大唐捕囚みたいな形で、そのまま唐に捕囚されました。彼が唐の都に行くと、帰りそびれた遣唐使の留学生が4人いた。遣唐使もなくなるし、異国で寂しい時に、日本語が通じて、日本の最新の情報を持っている大伴部博麻が来たということで、親密な交わりをします。

そのうちに、唐の様子がおかしい。最近色んな異民族を集めている。肌の色・髪の色・眼の色が全く違う巨人がやって来る。実は、白村江の戦いで日本がちょっかいを出したということで、日本討伐のために、大海軍を結成して戦争の準備をすることが分かったんです。何とかして母国に一刻も早く伝えたいと思うけど、当時は電話もメールもない。伝える方法は、船に乗って日本に渡り、朝廷に言うことだけです。

だけど、貧乏留学生と捕虜になっている大伴部博麻には金が無い。大伴部博麻は「俺は自分を奴隷として売る。それで4人分の船賃が出るから、日本に渡って、今日本襲撃のために軍備増強していることを朝廷に言ってくれ。」「いや、そんなことできません！」しかし、博麻は独断でやってしまうんです。その金をドンと置いて、日本国防のために防人（さきもり）制度を充実し、沿岸に上陸できないように色々策を授けて、「日本が唐の軍門に降ることがないように伝えてくれ！」そうして送り出すんですね。それが朝廷に届き、天皇の耳に届いて、結局、この日本討伐は起こりませんでした。

でも、大伴部博麻は30年間奴隷ですよ。30年後、彼は色々な手を尽くして日本に戻って来ました。長い間の奴隷生活で身体はボロボロ。実際の年齢よりも10も20も年上に見える、ヨレヨレの状態です。帰って来た彼を天皇が迎えて、「あなたの一族には税の負担を一切掛けない。あなたは日本にとって宝物です。」  
当時、天皇が一民間人に直接言葉を掛けるというのは無いことですが、天皇が深々と礼を述べられたという記録が残っています。

強いられた自己犠牲ではなく、だれかを救うために率先して自分を献げるのを聞いた時、やっぱり心の琴線に触れるものがありますよね。  
かつて日本を、その独立を守るためにそんなことをした人がいるというのを聞くと、頭が下がる。その人を尊敬するというか、称賛せずにおれない。私はそうです。

ところが、油注がれた者は断たれ、彼には何も残らない。  
油注がれた者メシアはユダヤ人／人類の罪のために断たれるんですが、彼には何も無い。つまり、メシアは自己犠牲で十字架に磔られて命を献げられたのに、尊敬も無い。評価も無い。感謝も無い。礼拝も無い。だれも評価しなかった。  
「ここまでのことをしたのに、彼は全く評価されないままだ!」「感謝するだろ、本当は!でも、それも無かった」というのが1つ目の事件です。

## ②26b 次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。

次に来る君主は反キリストです。7章と8章で反キリストのことが何度も紹介されていますね。7章では「いと高き方に逆らい、いと高き方の民を悩ませる者。」8章では「一人の横柄で狡猾な王が現れる。」  
やがて、反キリストがイスラエルを悩ませることが書いてありました。  
その文脈の中で、恐るべき君主が出て来ることを言った上での9章なので、次に来る君主は反キリストなんです。  
この反キリストの民が、都（エルサレム）と聖所（神殿）を破壊する。

メシアが断たれた後、エルサレムと神殿はだれに破壊されたか。  
ローマ人ですね。つまり、次に来る君主の民はローマ人である。  
言い換えると、反キリストはローマ人の末裔ということです。  
反キリストはユダヤ人じゃない。ローマ・ラテン系の人たちから出て来る。  
これはAD70年に既に起こりました。それで、ユダヤ人たちは世界中に散らされて行ったんですね。これが2番目の事件です。

## ③26c その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりまで荒廃が定められている。

ダニエル書での洪水は水のことではありません。軍隊／大軍のことです。  
戦いの終わりまで荒廃が定められている。そのとおりに、イスラエル、特にエルサレムはずっと、絶えず戦争の現場になります。今でもそうじゃないですか。  
イスラエルがどんなにハイテクの軍隊を持とうが、次から次へとテロがあって。  
最後の最後までこの地は荒れる。絶えず揉めている。そう定められている。

これが 3 番目の事件です。

これを見ていくと、ナザレのイエスこそ、聖書が預言しているメシアだということが分かるんです。

油注がれた者は断たれ、彼には何も残らない。そして、次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。ローマ帝国の軍隊がエルサレムを破壊したのは AD70 年。つまり、メシアは AD70 年の前に殺される人物でなければならない。AD70 年以前にイスラエルに現れ、無残な殺され方をし、イスラエルの中でだれも評価しない人物。この条件に合致するのは、イエスしかいないんですよ。イエスこそがイスラエルの王／メシアであると、ここで語っているんですね。

69 週の後はこの 3 つが起こりました。そして最後の 1 週です。最後の 1 週は連続ではないんですね。

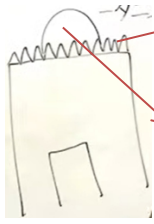
**27 彼（反キリスト）は一週の間（7年間）、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。**

ラスト 1 週のスタートは、反キリストがイスラエルの多くの者と堅い契約を結び、その初日です。多くの者。全員とは書いてない。「こいつ、おかしいな」と思っている人たちもいるけど、反キリストが大部分の者たちと堅い契約を結ぶ。多くの者と一々契約を結ぶんじゃないですよ。これは、民主主義によって選ばれた、政体を暗示していると思えませんが。最大多数の票を集めた人が、その国の代表になるからです。その代表者が、この人物と和平を結ぼう、契約で国を守ってもらおうとする。

彼（反キリスト）は一週の間（7年間）、多くの者と堅い契約を結ぶ。これは艱難時代の始まりですが、艱難時代が始まるには、イスラエルという国が存在していなければなりません。反キリストが生きていても、イスラエルが存在しないなら、契約を結ぶ対象者がいないので、この預言は実現しません。イスラエルという国が出現したことが、終末時代の大きなしるしです。

さて、1 週の間（7年間）、あんなにも堅い契約を結んだのに、半週の間（3年半）、いけにえとささげ物をやめさせる。つまり前半の 3 年半は、いけにえとささげ物をさせていた。いけにえとささげ物は神殿で献げます。ということは、終末時代のもう 1 つのしるしは、イスラエルに神殿が出来るということなんですよ。まだ無いやん。あったら怖いわ。無くていいんですよ。でも、やがてイスラエルに神殿が再建される。そして、初めの 3 年半はいけにえとささげ物が献げられるけど、3 年半になった時にやめさせる。

忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。  
翼はケナフという言葉で、頂（いただき）という意味があるんです。



これ神殿。神殿の頂に三角のギザギザが付いてるんですよ。これが翼。忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れるというのは、反キリストの偶像は神殿の頂の上にドーンと載せられるという意味。

至聖所の中に安置したら見えません。しかし、神殿の屋上の翼／頂の上に安置すれば、この神殿をコントロールしている、神殿の上に存在しているのは反キリスト様だということが一目瞭然で分かる。

7年間の後半3年半は、もうだれにとっても恐るべき時代ですが、ユダヤ人にとっては特に苦しい時代です。この時代はいつまで続くのか？延々と続くのか？いいえ。

そしてついには、定められた破滅が、荒らす者（反キリスト）の上に降りかかる。

上からやって来る何か反キリストを滅ぼす。それが**地上再臨**です。

7年間の艱難時代は1日の延長もありません。2520日目にイエス・キリストが地上再臨して、反キリストの治世を強制シャットダウンします。

これを全部まとめて490年と言ったんですね。

まだ艱難時代に入っていませんが、イスラエルが出来たこととか…。そして、最近の情勢を見ていくと、反キリストがイスラエルを憎んで滅ぼそうとしている。

イスラエルを完全に滅ぼすことができたならメシアは来ない、と考えているからです。

今世界中で、反イスラエル・反ユダヤのうねりって、凄くないですか。

この間、飯山陽（いいやま あかり）さんが、東京15区の補欠選挙に立候補されましたよね。4月19日に立候補して4月29日が投票日でした。

開票日の翌日、彼女は精神科に行ったんです。不眠と動悸・フラッシュバックで。実は10日間の選挙キャンペーンの間、ものすごい攻撃を受けたんですね。翼の党というヤツに。

たった10日で第2位のグループに入りましたね。投票率4割…低い。

投票率が低いと、組織票を持っている人が有利です。今回補欠選挙は全国で3か所あって、3か所とも立憲民主党が取った。立憲民主党の中身は元の民主党ですよ。

民主党が好きな方は、ちょっと耳を塞いでおいてください。

あれは日本をダメにした党だと私は思ってます。私が今一番心配しているのは、岸田政権の支持率の低さ。今やって、万が一でも前と同じことが起こったら、日本はどうなんねんという。その不安があるんですが、彼女には感謝しかありません。

実は何回かご自分のYouTubeで、ごうちゃんねるのことを言ってくださったんです。チャットでバーッと出て来た時、「ああ、ごうちゃんね。知ってるよ。今度一緒にやりましょう。だれか連絡してって伝言してください」って。

私ね、コメント欄に連絡したんですよ。「ぜひ、コラボお願いします。」

・・・見てへんねん。たくさんコメントに埋もれてしまって見てへん。

どうやったら届くんか分からへんから、ここで言ってるんですけど。

彼女には感謝しかないですよ。中東の専門家として、日本の中でまかり通っている

偏ったイスラエル観について、専門知識を駆使して正してくれた。その功績。彼女はハッキリ言ってますね。「日本の中東専門家は左派です！だから、反アメリカ、反自民、反伝統、反保守。その流れの中でイスラエルを叩いている。」私もそうだなと思います。

彼女は10日間、翼の党の選挙妨害でもう追いかけて回されて、ダメージを受けてしまった。それで15区の支部長を降りたんです。もうできないと。それで特別会員。また回復されて、立っていただけたらいいなと、心の中で応援してます。

翼の党は、なぜ飯山さんを狙い撃ちにしたのか。翼の党の党首は黒川という男で、阪大を出てます。彼が自分のYouTubeで前々から言ってきたのはユダヤ陰謀論。この世界がこんなに酷いのは、ユダヤ人の財閥が世界を支配しているからである！そんな論調で、調べてきた陰謀論の話をホワイトボードにびっしり書いてやってる。

しかし、飯山さんをなぜそんなに非難したのか。飯山さんが「イスラエルが今やってることは、人質を取り戻すための自衛権の発動である。同じことをされて、人質奪還のために動かない国なんてどこにも無い。それを禁じるということは人間としてアウト」というようなことを言ったので、「おいっ！飯山！」と怒鳴り声を上げながらやっていった。

今は、イスラエルを弁護すると、恐ろしいプレッシャーや妨害に遭う時代です。「高原さん、大丈夫ですか？」私はね、無名なんです。あまりにも知られていないので守られていると。もちろん神様が守ってくださっているんですけど。でも、どんどん発信力がついていったらどうなるんでしょう。

今アメリカの大学は、学生から集めた寄付金を、イスラエルのハイテク企業などに投資してます。リターンがあるからです。アメリカの有名大学は、ほぼほぼ全部私立です。授業料は150円で計算したら年間1000万円とかでしょ。普通の人は行けないんじゃないかと思うんですけど。学校運営の一環としてイスラエルに投資していることに対して、「大学はイスラエルとの関係を切れ！」とやってる。

ハーバード大学を出たお笑いタレントで男前のパクンが、「イスラエルはけしからんと思う。でも、反イスラエルだけど、反ユダヤというレッテルを貼るのはやめてくれ。ネタニヤフ政権に反対しているのであって、それを反ユダヤの差別主義者とレッテルを貼る方がおかしい。イスラエルはパレスチナ人を武力で占領して吐き出した。そしてガザを占領した。」

全部間違い。ハーバードを出たかなんか知らんけど、そんなデタラメを垂れ流して。その時、知識人たちがいるんだけど、みんなウンウンと頷いてね。

「いや、ちょっとそれ違うぞ！国連決議に基いて造ったんだ。武力で追い出したんじゃない！」と、だれも言わない。

この学生運動の中には、プロの活動家たちが入っています。

「イスラエルは不正の上に成り立っている国で、被害に遭っている国に暴力を振るっている」という図式で説明するので、何も知らない若者は「それはけしからん！」となるんですが、嘘も 100 回言うと本当になる。これが今、目の前で起こっていると思いました。そんな中で主張していくのは非常に勇気がいることですが、ある意味、反キリストの霊が働いているように思います。

私たち日本人に対しては、こんな（27 節）聖書預言はありません。しかし、ユダヤ人に対する預言を見ることによって、聖書預言がいかにも間違いなく確実なものであるかを知ることができます。ユダヤ人の使命の 1 つは、「あなたを通して世界の人々が祝福される」ということなんです。

神様に対して感じやすい心が無かったとしても、終末預言を通して、歴史の主権者である神を知ることができるのではないのでしょうか。ぜひ聖書の神を信じてください。そして、聖書が語っている救いに与ってくださるように、心からお勧めします。

☆\*: .. 0 ...:\*☆ ☆\*: .. 0 ...:\*☆ ☆\*: .. 0 ...:\*☆ ☆\*: .. 0 ...:\*☆ ☆\*: .. 0 ...:\*☆

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017